

副専攻ガイド

2022 年度入学生用

(令和 4 年度)



(2) 食生産科学副専攻 (Food Safety Management Minor)

1. 食生産科学副専攻とは

私たちが日常で食べている食品は、生産、加工、流通、販売からなる複雑なフードシステムを経て届けられます。フードシステムの中で食の安全性はどのように確保されているのでしょうか？食生産科学副専攻では、フードシステムの各段階における安全管理、衛生管理に関わる講義と実習を提供し、食の安全・安心に貢献できる人材の育成を目指しています。

本副専攻は、獣医学部獣医学科と農学部応用生物科学科の学生を対象として設置されています。各専門分野の関連講義に加えて、農畜産物の生産現場の体験、食品加工工場・流通企業・食品検査会社・行政機関の見学を通して現場の取組を学ぶことが特徴です。日本の食料自給率は約40%と低く、多くの食品を海外から輸入しています。輸入食品の安全性を確保する仕組みを学ぶために、オーストラリアあるいはタイにおいて日本向け食品の生産、加工現場を訪れる海外演習を必修としています。また現地の大学で食生産に関わる講義を受けることで、国際的な視点を身につけます。

本副専攻の修了者には、学士(獣医学)または学士(農学)の学位と併せて「修了証」が授与されます。また、副専攻に関する科目の必要単位をすべて修得した場合、就職活動等で活用できる単位修得証明書を発行することができます。

2. ガイダンス・副専攻希望申請について

◆獣医学部獣医学科：

- ・募集は4月に行います。
- ・食生産科学副専攻に登録できるのは1年次のため、副専攻の履修を希望する者は1年次の4月に開催されるガイダンスに必ず出席してください。
- ・登録可能な人数は獣医学科で最大10名です。履修希望者多数の場合は抽選に基づき選抜が行われます。

◇農学部応用生物科学科：

- ・募集は1年次後期授業期間中に行います。
- ・食生産科学副専攻に登録できるのは2年次のため、副専攻の履修を希望する者は1年次後期授業期間中に開催されるガイダンスに必ず出席してください。
- ・登録可能な人数は応用生物科学科で最大10名です。履修希望者多数の場合は抽選に基づき選抜が行われます。

副専攻希望申請はガイダンス終了後に受付を行う予定です。詳細は学生ポータル (UNIPA) で周知します。

また、副専攻の履修を中止する場合は、食生産科学副専攻担当事務 (shokuno-gp@plant.osakafu-u.ac.jp) に申し出てください。

3. 修了要件について

食生産科学副専攻の修了証を受けるためには、各学科の卒業要件を満たすとともに、食生産科学副専攻に関する科目一覧の必修科目 13 単位、選択科目 11 単位以上、合計 24 単位以上修得すること。

4. 履修に関する注意事項

*各副専攻に共通する履修の注意事項については、P.3「副専攻履修について」を参照してください。

- ・必修科目に関して、ほとんどは集中講義で行います。国内での実習（場所は未定）および国外開催の海外演習（オーストラリアとタイの二か国の中から渡航先を選択）に参加してください。
- ・海外演習の旅費は原則自己負担となります。ただし、大学等が海外活動を支援する応募型の奨学資金を利用できる場合があります。利用可能な奨学資金がある場合は、事前に履修生に連絡します。

◆獣医学部獣医学科の学生に対する注意事項

農学部応用生物科学科開講の科目は中百舌鳥キャンパスにて行います。カリキュラムの関係上 1 年生のうちに修得してください。

◇農学部応用生物科学科の学生に対する注意事項

- | | | |
|--------------------|---|---------------------|
| a. 選択科目「毒性学」 | } | りんくうキャンパスにて開講、 |
| b. 選択科目「獣医公衆衛生学」 | | 遠隔授業で中百舌鳥キャンパスでも履修可 |
| c. 選択科目「毒性学基礎実習」 | } | りんくうキャンパスにて開講・履修 |
| d. 選択科目「食品衛生学基礎実習」 | | |

必修科目「国際食料流通演習」の履修にあたっては、海外旅行保険の加入及びパスポートの取得が必要となります。

本副専攻の履修と植物工場科学副専攻の履修を同時に行うことはできません。また、教育職員免許状取得のための履修との両立は困難です。

その他副専攻に関しての詳細は以下の HP をご確認ください。

<http://www.gp.vet.osakafu-u.ac.jp/bioenv/>

5. 食生産科学副専攻に関する科目一覧 ※1

科目区分	副専攻科目	授業科目名称	配当年次	単位数	開設学部学科	備考	修了要件
必修		食料流通論	獣2、応2	1	農学部応用生物科学科	春季集中	13 単位
	○	国際食料流通論	獣2、応3	1	獣医学部獣医学科・ 農学部応用生物科学科	夏季集中	
	○	食料生産実習	獣1、応2	1	獣医学部獣医学科	夏季集中(学外)	
	○	国際食料流通演習	獣2、応3	2	獣医学部獣医学科・ 農学部応用生物科学科	夏季集中(学外)	
	○	食料流通安全評価実習	獣2、応2	1	獣医学部獣医学科・ 農学部応用生物科学科	春季集中(学外)	
	○	総合衛生管理学実習	獣3、応3	1	獣医学部獣医学科	春季集中(学外)	
		食品衛生科学	獣1、応2	2	農学部応用生物科学科	夏季集中	
		フィールド実習A	獣1、応2◇	2	農学部応用生物科学科	前期	
		食料安全科学	獣1、応3	2	農学部応用生物科学科	後期	
選択		植物病理学	獣1、応2	2	農学部応用生物科学科	後期	左記選択 科目から 11 単位 以上
		栽培管理学	獣1、応3	2	農学部応用生物科学科	後期	
		園芸生産学	獣1、応3	2	農学部応用生物科学科	後期	
		獣医生理学A	獣1◆	2	獣医学部獣医学科	後期	
		毒性学 ※2	獣2◆、応3	2	獣医学部獣医学科	後期	
		獣医公衆衛生学 ※2	獣2◆、応3	1	獣医学部獣医学科	前期	
		獣医環境科学	獣2◆、応3	1	獣医学部獣医学科	前期	
		基礎動物生理学 ※2	応2	2	農学部応用生物科学科	後期	
		毒性学実習	獣3◆	1	獣医学部獣医学科	前期	
	○	毒性学基礎実習 ※3	応3	1	獣医学部獣医学科	選択必修・ 夏季集中	
	○	食品衛生学基礎実習 ※3	応3	1	獣医学部獣医学科	選択必修・ 夏季集中	
合計							24 単位 以上

・学部学科で配当年次が異なっている科目がありますので注意してください。(獣：獣医学部獣医学科、応：農学部応用生物科学科) 配当年次に◇、◆の付いている科目は該当学部学科の必修科目を示しています。

※1 卒業要件に含まれる科目(専門科目等)もありますので、履修にあたっては各学部学科の履修要覧および最新の時間割を参照ください。

※2 農学部応用生物科学科の学生で「毒性学」及び「獣医公衆衛生学」の履修を希望する学生は、事前に「基礎動物生理学」を履修することが望まれます。

※3 農学部応用生物科学科の学生は「毒性学基礎実習」または「食品衛生学基礎実習」のどちらかを必ず修得すること。